１級　実技（面接）試験実施概要

実技（面接）試験は、以下の実施方法により行われます。

１．実施方法：ロールプレイ　……　　30 分
　　口頭試問　　……　　10 分（口頭試問は試験官からの説明・質問等も含みます）

２．事例は、次頁の３ケースのうち１ケースが出題されます。

３．受検者は、民間の相談機関等において、キャリアコンサルティングの実践を行いながら、キャリアコンサルタントに対して事例指導の役割を担っていると仮定してロールプレイを行います。

事例指導とは、相談者へのよりよい支援と、事例相談者のキャリアコンサルタントとしての成長を目的に、事例相談者の担当する事例を通して指導を行うものです。具体的には、相談者に対する面談過程、事例の見立てや対応の方針、組織への働きかけ、リファーやコンサルテーション、事例相談者に不足する態度、役割意識、知識やスキル等について、気づきを促し情報提供や助言を行うことです。

４．事例相談者(キャリアコンサルタントの役割)は試験係員が行います。

５．最初に受検者（事例指導者）から自己紹介（ご自身の専門領域や理論的な立場などについて１分程度で説明）し、事例相談者に対し事例内容についての説明を求めてください。その後の事例指導の進め方は自由ですが、事例相談者との間に教育指導関係を築き、事例を通して事例相談者の問題を把握し、事例相談者への育成的な目標を設定するなど、具体的な指導を行うよう心がけてください。

６．受検室にボールペンとメモ用紙を 1 枚準備します。受検中は自由に使用可能です。なお､ボールペン、メモ用紙は一切持ち出しできません。

７．ロールプレイ後、口頭試問を行います。
　口頭試問の例：
　①今回のロールプレイを振り返って、ご自分の良かった点、改善したい点は何ですか。
　②この事例相談者の事例の進め方の問題は何でしょうか。
　③事例相談者の問題を事例相談者と共有するためにどのような働きかけをしましたか。

８．合格基準は 100 点満点で 60 点以上の得点です。評価区分は基本的態度、関係構築力、問題把握力、具体的展開力の 4 区分です。なお、評価区分ごとに満点の 60%以上の得点（所要点）が必要です。

９．厳正な採点を行うため、面接試験内容を録音します。受検者は受検に際し、資料等の持ち込み、録音は一切できません。なお、録音をしていた場合は失格となります。

＊１級　実技（論述）試験の出題形式の変更に関するお知らせ

2023 年度より、以下の通り変更されます。

1. 出題形式：記述式による解答　１ケース
2. 試験時間：80 分

厚生労働大臣指定試験機関

特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会

〒105-0021 東京都港区東新橋 2 丁目 11 番 7 号 住友東新橋ビル 5 号館 9 階

TEL 03-5402-4688

【1 級　第 13 回　実技（面接）試験　ロールプレイケース内容】

　ロールプレイは、事例相談者と受検者（事例指導者）のみで行います。相談者に関することはロールプレイの中で、事例相談者に説明を求めてください。

ケース 1

事例相談者：キャリアコンサルタント（相談歴 2 年）

相　談　者：A さん、男性（45 歳）

相談者が相談したこと：派遣からやっと正社員になれた今の会社で、係長職就任の打診を受けた。結婚が遅かったので子どもが小さく手がかかるうえに、母の介護が必要な状態になってきた。打診は大変ありがたいのだが自信がなく、どう考えたらいいかわからなくなり、相談にきた。

キャリアコンサルタントが相談したいこと：A さんのこれまでのご苦労は大変なものだった。頑張ってきたことの成果として、今回の打診があったということに気づいてもらいたいと支援的にかかわった。育児・介護休業法などの情報提供も行い、前向きに検討できるよう進めたが、どこか納得のいかない様子のまま面談に来なくなってしまった。どんな助言が必要だったのか、指導を受けたい。

ケース 2

事例相談者：キャリアコンサルタント（相談歴 2 年）

相　談　者：B さん、男性（35 歳）

相談者が相談したこと：今年の夏に二人目の子どもが生まれる予定で、在宅勤務を活用して子育てとの両立を図る計画だったが、会社の方針で今年度いっぱいで在宅勤務は利用できなくなることがわかった。そのため、3 月末で退職することを決め、在宅勤務が可能な企業中心に転職活動をしている。しかし希望する条件で内定に至らないため、どうしたらよいかわからず相談にきた。

キャリアコンサルタントが相談したいこと：B さんは、在宅勤務にこだわっていたが、経済面の安定を図ることを最優先にすべきと考え、まずは経験や能力を活かせる仕事を広く検討するように提案した。次回までにキャリアの棚卸しを行い、広く求人情報を調べてみるように伝えたが、次の面談はキャンセルとなった。どのような対応をすべきだったのか、指導を受けたい。

ケース 3

事例相談者：キャリアコンサルタント（相談歴 2 年）

相　談　者：C さん、女性（22 歳）　私立四年制大学　経営学部 4 年生

相談時期：7 月

相談者が相談したこと：大手企業を中心に就職活動をしているが、まだ内定はもらえていない。大学はオンライン授業が中心で、サークルにも入っていないので、PR できることが少なく、面接でうまく自分のことを伝えることができていない。早く内定をもらいたいと思っているのでどうしたらいいか教えて欲しい、と大学のキャリアセンターに相談にきた。

キャリアコンサルタントが相談したいこと：まずは、コロナ禍で大学生活を送ってきたC さんの気持ちを受け止めるよう努めた。C さんは自分のことをうまく伝えられないということだったので、自己分析を行うことを提案し、次の面談では具体的に進めていこうと話したが、その後来談はない。支援の方法に問題があったのではないかと思い、指導を受けたい。

以上